

令和7年7月11日

## 第5回 中津市学校のあり方検討委員会会議録

## 第5回 中津市学校のあり方検討委員会 会議録要旨

日時：令和7年7月11日（金） 18：30開会

場所：中津市教育委員会 教育委員会室

出席者：伊藤委員、梅高委員、奥村委員、今長委員、藤原委員、本田委員、相原委員、桑嶋委員  
（8名）

事務局：古口教育長、黒永教育部長、尾家課長、朝吹課長、杉村主幹（5名）

### 1. 開会

○黒永教育部長より開会の挨拶を行った。

○事務局より出席委員は11名中8名であり会議が成立する旨を報告（中津市学校のあり方検討委員会設置要綱第6条第2項）

### 2. 委員長あいさつ

○伊藤委員長より挨拶を行った。

### 3. 学校視察の振り返り

○事務局より令和7年6月25日に実施した国東市立志成学園及び豊後高田市立戴星学園の学校視察の内容について振り返りを行った。伊藤委員長が学校視察の感想を述べた。

### 4. 議事

学校のあり方検討再編の考え方の論点整理

#### （1）学校のあり方検討の目的

○事務局より、資料に沿って学校のあり方検討の目的とその論点整理について説明した。

#### （2）学校のあり方検討の視点

○事務局より、資料に沿って学校のあり方検討の視点とその論点整理について説明した。

○A委員：視察に行かなかったのですが、先ほどの説明で新しい学校という視点で志成学園や、戴星学園がつくられたと言われていましたが、伝統を引き継ぐということは志成学園とか、戴星学園はどのようにされていたのですか。

○事務局：志成学園は、当時の保護者の方が視察の時にいらっしゃっていて、その時におっしゃっていたのが、当時の旧武蔵西小学校で、餅つきがずっと伝統的に行われていたようで、それを志成学園が開校してすぐ引き継いだわけではないんですけれども、最近やっと引き継ぐことができたということで、開校して何年も経つんですが、そのように熱意を持って、元の学校の伝統を引き継いでいこうとされていました。

○A委員：引き継ぎつつ新しい学校というコンセプトでいってるみたいな。イメージとしては。

○事務局：そうですね良いところを引き継ぎつつ、戴星学園も志成学園もだったんですけども、英語に特化してグローバル社会で活躍できる児童生徒を育てていくというところで共通しており

ました。

○B委員：私は視察に行って、普通今の小学校ではできないような、中学校の先生が小学校に教えたり小学校の先生が中学校で教科を持ったりっていうようなところや、1年生から英語科を導入していったり、今の小学校ではできないような新しい学校、今までとは違う学校で、そしてグローバルなこれからの社会に対応していく学校なんだというところの視点というのは保護者や地域に受け入れられるんじゃないかなと感じたし、普通の学校もこれから学校全体はそのような流れになっていくのかなと感じて、新しい学校という視点がとても大事だと思いました。

### (3) 目指したい教育環境

○事務局より、資料に沿って目指したい教育環境とその論点整理について説明した。

○C委員：中学校の視点から、過去の部分も含めて、最後の専門外のことが今私のいる学校でも、専門外、免許外を2教科やってるということで、新たな学校ができ上がったときに、やはりその辺の免許外が解消できる人員配置というのがないと、せっかく新しい学校になっても十分な教育環境を整えられてると言えないと思うので、定数が決まってる中でやっていくプラスアルファ、市としてそこに措置をするなり、また県の方も協力していただいて、加配を入れるなりして十分な人員を配置しないと、統合したものの人数が足りないとなれば、ちょっと意味がないなと思いますので、そこら辺も含めて、新しい学校のビジョンを作っていただけたらなと思ってます。

○事務局：そういったことも検討の材料にさせていただきたいと思っております。

○D委員：どんな学校ができるかわからないが、新しい学校始まるときはその辺り配慮が必要かなっていうふうに思う。志成学園も戴星学園も免許の保有状況について、あまり問題意識持っていないみたいだったんですけれども、動き始めたらうまくいくのかもしれませんが、スタートする時点ってやっぱりちょっと気をつけなきゃいけないかなと思います。回り始めると、どんな学校になるかわかりませんが、小中連携のというか、ある意味モデル校として見られていくことになると思うんですよ。だから、開校するときの教員の教職経験、どういう経歴の人が来ているのかとか、保有免許状とかそこをしっかりと考えていかないと、回り始めないかなと思っているので、そこは私も配慮が必要かなと思っているところです。

### (4) 学校規模の考え方

○事務局より、資料に沿って学校規模の考え方とその論点整理について説明した。

### (5) 学校のあり方検討の方法・(6) 学校規模に応じた検討の視点

○事務局より、資料に沿って学校のあり方検討の方法・学校規模に応じた検討の視点とその論点整理について説明した。

○D委員：委員意見のところの小中一貫校っていう言葉が出てきているんですけど、これは義務教育学校を指してるという理解でいいんですよね？区別して言っているんですかね。

○事務局：特に区別はしておりません。一緒の意味で捉えていただいて。

○C委員：今小中一貫校と義務教育学校特に区別していないということでしたけども、先日県の研修会があったときに、豊後大野市が今年一斉に全部学校が小中一貫校になったという話を

聞きました。いろんな形はあるんでしょうけども、その時に質問が出て、義務教育学校と小中一貫校との違いといった部分が出たんですけど、義務教育学校になると、完全に新たな学校で今ある学校がすべて廃校となってやると。だから当然名前もなくなってしまうという話を聞きました。小中一貫校、戴星学園がそうなんですけど、都甲中学校・都甲小学校という名前があって、戴星学園と仮に呼んでるといふか、そのようだったので、最初伊藤先生も言われたように、旧下毛の学校それぞれ学校に名称の部分とか、非常に気になると思うんですが、その辺は区別して検討していく必要があるのかなと思いました。

#### (7) 学校再編のプロセス (案)

○事務局より、資料に沿って学校再編のプロセス (案) とその論点整理について説明した。

○E委員：私以前、統廃合を経験している人間です。統廃合、吸収される、すごく怖いイメージとか嫌なイメージを描いていたことが強かったです。戴星学園で旧武蔵西小学校が小さい学校だから吸収されるのではないかという気持ちがあったというのが本心だと思います。

今回三光から山国までに関してはすべて小規模校・過少規模校に該当してきて、中津市でも地域がすごく広いんですね。距離が長い。その幅広いところのどこが一番学校統廃合に向いているのかと言うと、どこも自分たちの学校は守りたいし、伝統もある、小規模校の学校の良さがあるって思っている。そういった気持ちでありながら、今日一番最初、この間の学校視察の話をお聞きしてもらって、統廃合じゃなくて、新しい学校なんだよ、新しい学校作るんだよ、だから昔からある耶馬溪って名前、本耶馬溪って名前、山国って名前よりもさらに昔の地域の名前とかさらに昔のことをやっているから、伝統よりもさらに昔だから新しい学校なんだよ。地域の人が望まないところに新しい学校を作ろうとしてもやっぱりうまくいかないなと。じゃどこがいいのかなと。戴星学園のときに、希望している人はイエスが76%ぐらいノーが24%くらいと、ほとんどの人が一緒になることを望んでいると。それを三光から山国までのどこの学校が望んでいるのかデータ化する必要があるんじゃないかなと思います。

この都甲小中学校、以前の都甲小・中学校で戴星学園ですかね、約半数以上が通学圏外というか、校区外からやって来ている。ということは、校区はもともとの地域で歩けるのがいいよというのではなくて、わざわざ新しい学校に行きたいという人が半数以上いる。

その半数以上っていうのはとても大事なことで、三光から山国までの長い距離があるこの中津市にとって、この都甲小・中学校の半数以上の人たちは通学距離がどのくらいからやってきているのかという、多分、アンケートをとるとすごく離れている場所から来ている人もいるし、平均的にどこくらいからやってくるのかな。やっぱり新しい学校っていう言葉、そしてそこに望んでやってくる。そこに望んでやってくる地域っていうのが一番いいんだろうな。そうすると通学っていうのも自然と、もちろんバスできている絵があったけれども、親だって自分たちで望んでいるんだから連れていく、そういうふうになるんだろうなと。やっぱり伊藤先生が言った通り、今回新しい学校をつくるとしたらモデル校であって、一番最初にやるところはこんな学校にやらせたいんだよ、遠くにあってもやらせたいんだよ、新しいこんな勉強ができるんだよと思えるようなところをモデル校として1つ、アンケートをとってもらって、希望が多いところの校区に、新しいモデル校として特認校として他所からやって来れるような状態を作る。そしてそういった学校の評判を聞いて、抵抗があった人たちも「新しい学校っていいんじゃない」と思え

るようになって、それが増えてくるというのが一番理想かなと。

ちょっと豊後大野市の一斉に小中学校になるよってというのは自分は無理やりさせられた感じじゃないけど、地域のそういった伝統の学校がなくなるっていう気持ちは、自分は強くアンケートで出るんじゃないかなと思って、新しい学校のモデル校を作って、その評判を聞いてみんなが行きたがる学校というのが、個人的には理想かなと感じました。

○A委員：今の話の続きですが、それをしていくにはアンケートをする前にそういった新しい学校のコンセプト等を周知する必要がありますよね。その順番というのが大事になるのかなと思います。

#### (8) 通学路・通学支援・跡利活用・フォロー

○事務局より、資料に沿って通学路・通学支援・跡利活用・フォローとその論点整理について説明した。

○D委員：この現在の通学支援、小学校4キロ中学校6キロって、リアルに考えたら結構な距離ですよ。

○事務局：支援というのが金銭面の支援という形になりまして、4キロ以上の小学生については6千円、6キロ以上の中学生につきましては1万2000円の年間補助しているという形になります。

○D委員：そういうところにスクールバスが入るとその金銭的な支援はなくなるということですよ。今現在のスクールバスが走ってる地域があるんですよ。

○事務局：ございます。

○事務局より、資料の訂正を行った。

## 6. その他

○事務局より次第の5. アンケートについては次回行くと説明した。

○次回の検討委員会の日程を8月4日(月)に決定した。

○F委員：私は視察に行っていないんですけど、色んな話の中に学校の名前が出たじゃないですか。今豊前市も統廃合の話が出ていて、統合する中学校の名前が多分豊前蔵春学園。明治に蔵春館っていう市学校があったんです。そういうのって今流行りなのかなと思って。豊前中津で100以上の寺子屋とかあったんで色んな名前がもしかしたらあるかもしれない。寺子屋に名前があったかどうかわかんないんですけど、そういう私塾みたいなのも結構あったんだろうと思うんで。もし何か良い名前がその中で拾えるのがあれば調べておいてもらおう。なければ別にいいですけど、あるといいのかなっていう気はします。

## 7. 閉会

○黒永教育部長より閉会の挨拶を行った。

20時06分 閉会